

## VI 婦人薬

### 1) 適用対象となる体質・症状

婦人用薬の効能・効果として、血の道症、更年期障害、月経異常及びそれらに伴う冷え性、月経痛、腰痛、頭痛、のぼせ、肩こり、めまい、動悸<sup>きん</sup>、息切れ、手足のしびれ、こしけ（おりもの）、血色不良、便秘、むくみ等がある。

血の道症とは、月経、妊娠、分娩<sup>じんぶん</sup>、産褥<sup>じょく</sup>、更年期等の生理現象や、流産、人工妊娠中絶、避妊手術等といった原因で生じる異常生理によって起こり、臓器・組織の形態的異常は見当たらないが、抑鬱<sup>うつ</sup>や寝つきが悪くなるなどの精神・神経症状が現れる病態である。

更年期障害は、閉経前後の卵巣機能の低下によって女性ホルモンの分泌が減少する時期、いわゆる更年期に見られる。更年期の不定愁訴<sup>い</sup>として前記の血の道症の症状に加え、冷え性、腰痛、頭痛、頭重、ほてり、のぼせ、発汗、立ちくらみ等が挙げられる。

婦人用薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品であり、血行不順、自律神経の乱れ、生理機能障害等の女性特有の不快感を改善する。

### 2) 代表的な配合成分等、主な副作用

#### (a) 生薬成分

##### ① センキュウ

セリ科のセンキュウの根茎を用いた生薬で、血行を改善し、主に冷えの症状を緩和する。

##### ② トウキ

セリ科のトウキ又は近縁植物の根を用いた生薬で、血行を改善し、主に冷えの症状を緩和する。

##### ③ ボタンピ

ボタン科のボタンの根皮を用いた生薬で、鎮痛・鎮痙<sup>けい</sup>作用により腹痛等を鎮める。

##### ④ その他

緩下作用、健胃整腸作用がある生薬としてダイオウが婦人用薬に配合されている場合もあり、ダイオウに関する出題については、Ⅲ－２（腸の薬）を参照して作成のこと。

鎮痛・鎮痙<sup>けい</sup>作用がある生薬としてシャクヤクが配合されている場合もあり、シャクヤクに関する出題については、Ⅰ－２（解熱鎮痛薬）を参照して作成のこと。

健胃作用のある生薬としてオウレン、ケイヒ、ソウジュツ、ビャクジュツ、ブクリョウが配合されている場合もあり、これらの健胃生薬に関する出題については、Ⅲ－１（胃の薬）を参照して作成のこと。

<sup>i</sup> 体のどの部位が悪いのかははっきりしない訴えで、全身の倦怠感<sup>けん</sup>や疲労感、微熱感などを特徴とする。更年期障害のほか、自律神経失調症等の心身症の症状として現れることが多い。

消炎作用がある生薬としてカンゾウが配合されている場合もあり、カンゾウに関する出題、カンゾウを含有する医薬品に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ－１（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

(b) ビタミン成分等

疲労時に消耗しがちなビタミンの補給を目的として、ビタミンB 1（チアミン及びその誘導体）、ビタミンB 2（リボフラビン及びその塩類）、ビタミンB 6（ピリドキシン及びその誘導体）、ビタミンB 12（シアノコバラミン）、ビタミンC（アスコルビン酸及びその塩類）が配合されている場合がある。

また、冷え、肩こり、のぼせ等の更年期における諸症状を緩和する目的でビタミンE（トコフェロール及びその誘導体）配合されている場合がある。

このほか、滋養強壮作用をもつアミノエチルスルホン酸（タウリン）、グルクロノラクトン等が配合されている場合がある。

これら成分に関する出題については、XⅢ（滋養強壮保健薬）を参照して作成のこと。

● 漢方処方製剤

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤として、温経湯、温清飲、加味逍遙散、桂枝茯苓丸、五積散、柴胡桂枝乾姜湯、四物湯、桃核承気湯、当帰芍薬散等がある。

これらのうち、温経湯、加味逍遙散、五積散、柴胡桂枝乾姜湯、桃核承気湯は構成生薬にカンゾウを含んでいる。カンゾウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ－１（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

また、（感冒に用いられる場合の五積散、便秘に用いられる場合の桃核承気湯を除き、）いずれも比較的長期間（1ヶ月位）服用されることがあり、その場合に共通する留意点に関する出題については、XⅣ－１を参照して問題作成のこと。

(a) 温経湯

比較的体力の低下した冷え症の人で、手足のほてり、口唇の乾燥、下腹部の冷え、痛み等を訴える人における月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけに用いられる。

(b) 温清飲

皮膚の色つやが悪く、のぼせを訴える人における月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい。

(c) 加味逍遙散

虚弱体質で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のある人における冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい。

(d) 桂枝茯苓丸<sup>けいしぶくりょうがん</sup>

体力中等度又はそれ以上で、のぼせて赤ら顔が多く、下腹部に抵抗・圧痛を訴える人における子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、冷え症に用いられる。

著しく体力の衰えている人には、本剤の適応は向かないとされている（副作用が現れやすくなり、その症状が増強されるおそれがある）。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

(e) 五積散<sup>ごしやくさん</sup>

慢性に経過し、症状の激しくない胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え症、更年期障害、感冒に用いる。

病後の衰弱期、著しく体力の衰えている人においては副作用が現れやすくなるため慎重に投与する。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れることがある。

構成生薬にマオウが含まれており、マオウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点に関する出題については、Ⅱ－１（咳止め・痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

(f) 柴胡桂枝乾姜湯<sup>さいこけいしかんきょうとう</sup>

体力が弱く、冷え症、貧血気味で、動悸<sup>き</sup>、息切れ、不眠等の精神神経症状を訴える人における更年期障害、血の道症、神経症、不眠症に用いられる。

まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

(g) 四物湯<sup>しもつとう</sup>

皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人における、産後又は流産後の疲労回復、月経不順、冷え症、血の道症に用いられる。

胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れることがある。

(h) 桃核承気湯<sup>とうかくじょうきとう</sup>

比較的体力があり、のぼせて便秘しがちな人における月経不順、月経困難症、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）に用いられる。

著しく体力の衰えている人には、本剤の適応は向かないとされている（副作用が現れやすくなり、その症状が増強されるおそれがある）。また、著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感、下痢等）が現れやすい。

構成生薬にダイオウが含まれており、ダイオウを含有する漢方処方製剤に共通する留意点

に関する出題については、Ⅲ－２（腸の薬）を参照して作成のこと。

(i) 当帰芍薬散

比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸等を訴える場合の、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後又は流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ等に用いられる。

著しく胃腸の弱い人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐等）が現れることがある。

3) 相互作用、受診勧奨

【相互作用】 婦人用薬は、通常、複数の生薬成分を含有しているため、他の婦人用薬や生薬含有製剤等と併用すると含有生薬が重複して、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなるおそれがある。ダイオウ、カンゾウを含む製剤との併用には特に注意すること。

婦人用薬は、生薬成分を主体とした製剤や漢方処方製剤が中心となるが、生薬製剤又は漢方処方製剤を使用する際に留意されるべき相互作用に関する一般的な事項について、XIV（漢方処方製剤・生薬製剤）を参照して問題作成のこと。

【受診勧奨】 1ヶ月位服用しても症状が良くならない場合には医療機関を受診することが望ましい。月経痛について、年月の経過に伴って次第に増悪していくような場合には、子宮内膜症や子宮筋腫等の病気の可能性がある。また、月経不順は卵巣機能不全により引き起こされている場合もある。

そして、頭痛や鬱状態、動悸・息切れ等の更年期障害の不定愁訴とされる症状の背景に、原因となる病気が存在する可能性もある。鬱状態については、鬱病等が背景に隠れている場合もある。そして、動悸・息切れが心疾患による症状のおそれもある。また、頭痛については、頻回になった場合や、一般用医薬品の使用では痛みを抑えられない場合には、医療機関を受診することが望ましい。突然の激しい頭痛、手足のしびれや意識障害などの異常を伴う頭痛が現れたときの注意についてはI－2（解熱鎮痛薬）を参照して作成のこと。